

Stand UP! NO.49

2020年6月12日

発行責任者 後藤 修一

編集責任者 情 宣 部

2020年度夏季手当妥結!!

基準内賃金×1.75ヵ月

JR貨物労組は本日2020年度夏季手当の最終交渉を行ない、「基準内賃金×1.75ヵ月」で妥結しました。今年度は全国で新型コロナウイルスが流行し、多くの感染者、死亡者も発生しましたが、JR貨物は「指定公共機関」であるため私たち青年部は自らが感染するかもしれない不安を抱え、また慢性的な要員不足の中でも昼夜を問わず、日々の業務を遂行し最先頭で安全・安定輸送を担ってきたことを会社に訴えてきました。

貨物労組が要求していた2.9ヵ月とは程遠く、到底納得できるものではありませんが第4回交渉からの「昨年夏の基準額」という考えから、1.75まで押し上げたのはまぎれもなく全国の青年部員がコロナ禍の中でも怒布や職場からの闘いを最後まで展開してきた成果です!

コロナ禍で毎日働く恐怖を経営陣は全く分かっていない。現場来い!!!

コロナ禍で感染の不安を抱きながら働き、会社を支えた過酷さを経営陣は軽視している。物流を止めまいと職場は必死になって感染予防に努めてきた結果が感染者0である。感染者が0だったからこそ列車を止めることなく社会的使命も果たし100%以上の業務を私たちは担ってきた。これは、会社施策だけではなく我々の努力の賜物である。会社の言う「頑張った者が報われる」はいつ来るのでしょうか? 評価面談がこのタイミングであったが、コロナ禍であるのに「明けで超勤しろ」など、本来の評価制度から逸脱した発言が全国で起きている。体調に気を付けなくてはならない時期でよく言えたものだ。会社はまだ我々のことを「人材(材料)」としか見ていないのだろう。私たちは「人財(財産)」であり現場があって会社は成り立っていることを経営陣に認識させるためにも、全青年部員団結してこれからも闘っていきましょう。

青年部は計画ありきの経営を許さず コロナ禍の労苦の還元を今後も強く求めていく(怒)